

# 特別の教科 道徳 授業づくり講座

教材研究会（令和5年9月21日）高知市立介良中学校

発行 令和5年12月  
高知市教育委員会  
学校教育課

- 【主題名】** おおらかな気持ちで B-(9)
- 【教材名】** 「注文をまちがえる料理店」（2年「新しい道徳2」東京書籍）
- 【授業者】** 甲藤 さや 教諭
- 【ねらい】** それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心を持って謙虚に他に学び、自らを高めていく態度を育てる。

## 道徳科チームミーティングの実施

### 【コンセプト】

参加者同士で道徳科の授業づくりと評価のポイントを学ぶことによって、道徳科の授業力を養う。

- \* 事前・事後シートを活用し、道徳科の専門性（教科の特質）を確保
- \* ファシリテーターが授業者の悩みや課題をもとに、参加者の質疑応答や意見交換を促進することで協働的に授業研究を行う（同僚性の向上）
- \* 校内研修で実施する場合、30分から40分程度の短時間で実施でき、継続しやすい。

## ミーティングの流れ

- ① ミーティングの流れと教材・内容項目・実態を確認
- ② 授業者から授業づくりに関する悩みを報告・共有
- ③ 「事前研究シート」の項目をもとに協議
- ④ 授業者が取り入れたいことなどをまとめる
- ⑤ 協議結果を記録・保管

高知大学教職大学院 森教授 考案

## 授業者の悩み

- ① 主題に迫る中心発問と問い返し
- ② 考えを深く整理する板書

## グループ協議

|       |  |  |
|-------|--|--|
|       | <道徳的価値に関して望ましい姿、様子 (+)>  | <道徳的価値の実現が難しい姿、様子 (-)>   |
| 教材の概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の立場や考え方を尊重しながら自分の意見を伝えられる。</li> <li>自分と異なる意見を認めることができる。</li> <li>互いに相手のことを認め、理解していこうとしている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分は自分、他人は他人といった考え方。</li> <li>相手の意見を素直に受け入れられず、独自の考え方に固執してしまっている。</li> </ul> |
| 指導の要点 | 人には、それぞれ自分のものの見方や考え方があり、個性がある。大切なことは、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することである。そこで、寛容の心や他者の意見を認めて素直に取り入れる謙虚さをもって他に学び、自己を高められることができるような思いや考えを引き出していく。  |  |

### ① 協議ワークシート (B) グループ

**中心発問**

資料を通じて筆者の気持ちが変容した部分について対自分なのか、対相手なのかをはっきりして寛容な心・相互理解の価値について考えられる発問

【生徒の反応】

- 認知症の人が間違えることがつらいと知ったから
- 自分の考え方が変わったから
- 相手のことを深く考えることができたから

「間違えることは、つらいこと。」「それが僕の胸に深くつきささったのはどうしてか。」

**問い返し**

資料で道徳的価値を深く理解することで、資料から離れて場面が変化したときに、自分事（自分たち事）として、考えられると思う

深く突き刺さったんだよね！

なぜ間違えることをよしとしたままだったら、お店はどんなふうになっていったかな！

授業中に自分が間違えた時、どんな気持ちになる？

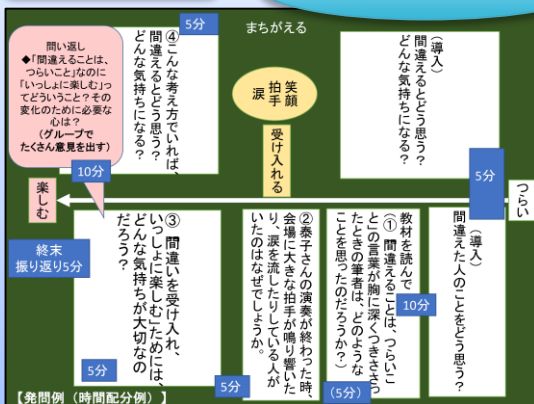
②

## 講話

### 板書及び発問例

【講師】

高知大学教職大学院  
森 有希 教授



| 問い返し  |   |
|---|---|
| <p><b>深める(例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしてそう思った？</li> <li>・〇〇って、どういうこと？例えば？</li> <li>・そういうこと身の回りでもある？</li> <li>・同じような経験ある？そのときどう思った？</li> <li>・自分だったらどう思う？</li> </ul>                | <p><b>広げる(例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の意見に質問してみる。</li> <li>・〇〇の立場ではどう思う？</li> <li>・〇〇と〇〇は、どこが違う？どうして違う？</li> <li>・前と今ではどこが違う？何がそう変えたのか？</li> </ul> |
| <p><b>播さぶる(例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そういうことって大事だけど、実際、できないなって思うのはどういう気持ちから？</li> <li>・やっぱりよくないのかな？どうしてだめだと思う？</li> <li>・それは形だけそうしてるってこと？</li> <li>・本当にそうなのかな？どうしてそう言える？</li> </ul> |   |

## 参加者の感想

(どのような工夫を得ることができたか)

- ・ 内容項目に迫るための適切な発問とは何か、子供たちが考えを深めるための板書について知ることができた。
- ・ 中心発問の仕方について、初めは登場人物の気持ちが大きく動いた場面を発問に使うことを考えていましたが、道徳的な考え方を活かした発問でも良いことがわかった。学級の実態に合わせて、効果的である方を選び、発問を考えていきたい、と思った。
- ・ 中心発問を設定する上でどこに着目すべきか、具体的な問い返し例など、来週すぐに実践したいと思うものを得ることができた。

# 特別の教科 道徳 授業づくり講座

授業研究会（令和5年10月26日）高知市立介良中学校

発行 令和5年12月  
高知市教育委員会  
学校教育課

- 【主題名】 おおらかな気持ちで B-(9)
- 【教材名】 「注文をまちがえる料理店」（2年「新しい道徳2」東京書籍）
- 【授業者】 甲藤 さや 教諭
- 【ねらい】 それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心を持って謙虚に他に学び、自らを高めていく態度を育てる。

## 介良中の取組 【道徳推進教師より】

- ローテーション道徳
- 全員発言（今年度重点目標）
- コの字型で授業を実施

## 引き出したい生徒の考え

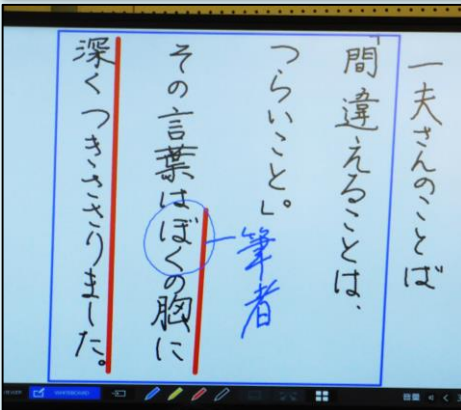
- ・ 人間であるからこそ、間違いや失敗をすることがある。その間違いや失敗が受け入れられ、安心して生活できる居場所づくりができるようにしていきたい。
- ・ 教室に「間違いを受け入れ、間違いを楽しむ」という考え方が広がってほしい。
- ・ 相手を理解し、相手を認めることが、自分の寛容の心を広げていく第1歩につながる。

## ◎中心発問 ○主な発問 ◆補助発問・問い返し

- あなたは人前で間違えたり、失敗したりすることに対してどう感じますか？
- 開店前のミーティングで一夫さんの「間違えることはつらいこと」という言葉が筆者の胸につきささったのはなぜだろう？どんなことを感じたから？
- ◎ 「間違えることを受け入れて間違えることをいっしょに楽しむ」ためには、どんな気持ちが必要なのだろう。
- ◆ 「受け入れていっしょに楽しむことで間違えた（失敗した）人はどう感じる」と思いますか。
- ◆ 受け入れるってどんな行動や言動で表すことができるかな？
- みんなが間違えることを恐れずに発言したり、いっしょに楽しんだりすることができるクラスになるためには何が必要だと思いますか。

平気な人( ■ カード) …2人

こわい・恥ずかしい( ■ カード) …23人



|   |         |
|---|---------|
| 人前で間違えたり失敗することに対して  | 2人 ⇒ 22 |
| 平気な人( <span style="background-color: blue; color: white;">■</span> カード)       | 23人 ⇒ 3 |
| こわい・恥ずかしい人( <span style="background-color: pink; color: white;">■</span> カード) |         |

## 授業の終末には

■ カード …22人

■ カード …3人

## 協議・共有

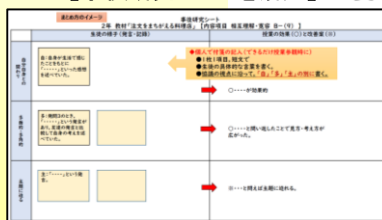


### ○ 生徒の様子（発言・記録）

- ・ 出た意見を素直に受け入れる、互いに聞きあうことのできる雰囲気。
- ・ 「笑い」や「いじり」等、自分たちの実態を捉えて考えていた。
- ・ 全校集会での出来事を取上げ、身近に感じた人もいたのではない。
- ・ 例を出して理由を言っており、主題に迫っていた。
- ・ それでもつらいものはつらい。
- ・ 周りの目が気になる。間違いは誰にでもある。
- ・ 受け取り方は人によって違う。



### 【事後研究シートを活用】



## 参加者の感想

（どのような工夫を得ることができたか）

- ・ 議論する土台となる学級づくりが素晴らしく、子供たちが授業の中でも開放されていた。更に授業者が練った授業構想をもとに即興性も交えながら対話的な授業展開をして主題に迫ろうとしていた。
- ・ 授業の進行の仕方、教師の話し方、意図的指名の仕方など様々な手法を実際に見て、学ぶことができた。
- ・ 生徒の発言やつぶやきを大切に上手く授業のねらいにつなげていく。
- ・ 子供たちの思考の動きを捉えながら、どういった流れで内容項目に迫るのか、そのためにはどのような言葉を選んで発問するのか、視覚化していくのか。
- ・ 生徒同士の意見交流を色んな角度から考えて繋いでいた。

### ○ 授業の効果と改善案

- ・ 「色カード」→意思表示しやすい。考え方の変化が見えやすい。
- ・ 生徒が発言した後に、小さな反応を見逃さずなく指名。
- ・ 一人の生徒の発言を聞いただけで終わらず他の生徒に発言を繋げて考えさせていた。
- ・ 生徒の理解の段階がよくわかる板書だった。
- ・ 「明るい声かけて何？」と問い返したことで子供たちが積極的に話し合えるようになった。
- ・ 「○○さんの後に聞くね」とワクワクン置いたことで答えることができた。
- ・ 一人一人の意見が知りたい場面もあったので、何かに書かせる。
- ・ 中心発問の前に「間違い・失敗はダメなことか？」と入れるとわかりやすかったのではない。
- ・ 認知症の人のことなのか、自分自身のことなのか混乱している生徒がいた。